

東京科学大学における日本学術振興会特別研究員(PD 等)の育成方針

東京科学大学は、「挑戦し続けるフロントランナー」および「知と癒しの匠」としての気概と人間力をあわせ持ち、「科学の進歩」と「人々の幸せ」の両立を探求する教育理念のもと、未来の科学技術の発展に貢献できる自立した研究者の育成を目指しています。また、「善き生活・善き社会・善き地球」という三つのビジョンのもと、社会や地球の課題に学際的に挑む研究者の育成を大学全体で推進しています。

このたび、日本学術振興会による「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」(以下「本事業」という。)の登録機関となることにより、本事業を通じて、ポストドクターとしての経験を積み、自らのビジョンに基づいて新たな学問領域や社会的価値を創出できる人材を育成することを目的とします。

本学では、以下の三つの方針のもと、特別研究員(PD 等)が主体的に研究に取り組み、自立した研究者として成長できるよう支援します。

1. 安定した雇用とプレゼンスの向上

本学では、特別研究員(PD 等)が安定した環境のもとで研究に専念できるよう、大学との雇用関係を通じて明確な身分を保証します。

本事業導入後に本学で受け入れる特別研究員 PD 等については、本学の就業規則に基づき「研究員」として雇用し、社会的に安定した立場と充実した福利厚生を確保します。

これにより、研究者が安心して主体的に研究に取り組み、成果を発信しながら学内外での存在感を高め、国際的にも信頼される研究者としての基盤を築くことを支援します。

2. 研究環境の整備

本学は、研究者が自由で創造的な発想を発揮できるよう、研究基盤の強化と支援体制の充実を重視しています。共用研究設備やデータ基盤の整備を通じて、特別研究員(PD 等)が、国内外の研究者と知見や資源を共有しながら、独創的な研究を推進できる環境を整えています。

また、研究資金の獲得支援や国際共同研究の促進、研究成果の発信支援などを通じて、研究者が自らの研究を深化・発展させる力を高め、挑戦的な研究活動を行うことを後押しします。

これらの取組により、学際的な融合研究や社会課題の解決に挑戦できる、柔軟で開かれた研究環境を整備いたします。

3. 多様性の尊重

本学は、すべての構成員が互いを尊重し、個々の力を最大限に発揮できるダイバーシティ&インクルージョンの推進を重視しています。性別、国籍、文化的背景、障がいの有無などにかかわらず、誰もが安心して研究活動に取り組める環境を整えます。

とりわけ、ライフイベントや家庭との両立が求められる局面においても研究を継続できるよう配慮し、女性研究者を含む全ての若手研究者がその能力を十分に発揮できる体制を整えます。

多様な視点や経験をもつ研究者同士が協働することで柔軟な発想を育み、研究の多様性が学術と社会の発展に寄与することを目指します。

本学は、これらの方針のもと、若手研究者が自由と責任の両立のなかで成長し、科学技術を通じて社会と地球の未来に貢献できるよう、継続的に支援を行います。